

大腸がん検診の取り組み

まいづる協立診療所 看護師長 長谷 幸子

1992年10月に、まいづる協立診療所は生まれました。今年で25年目を迎えます。

開設当初から「がんを出さない」取り組みとして、医療懇談会には必ず大腸がん検診をセットで行うなど、予防活動には力を入れてきました。

近年、大腸がんにかかる人が増え、舞鶴市の大腸がん健診として取り組みが始まったのは、1993年からです。1人所长で舞鶴市の医師体制も厳しいなか、「私達にできる事は何か」を全職員で話し合い、来院される患者さんだけでなく、家族の方にも勧めてきました。

だれもが年1回の健診（舞鶴市特定健診、大腸がん健診）を受ける事が早期発見につながり、健康を見直す機会としてとても大切であると痛感しています。

健診月間になると、前年度の目標を上回る目標を設定します。（今年度は1万人）

- ・40歳以上全員に声をかける（家族も）
- ・カルテに印鑑を押し検査をチェックをする
- ・企業健診に来られた方にも声をかける
- ・毎日、配布した数をチェックする（受付、中待ち、処置室、診察室）
- ・渡したら回収チェックを行い、まだの方には声をかける

大腸がんは、肥満や喫煙、加齢、アルコールのとりすぎが発がんの危険因子であるとされています。また、早期で発見すれば100%治すことができます。当診での大腸がん受診率は舞鶴全体の20%を占めています。また大体、年に2〜3人の方が当診で早期に大腸がんが見つかり「大

腸がん健診を勧めてもらいよかった」との声が聞かれます。「すてる便で命を救う」を合い言葉に1人でも多くの方に声をかけて続いています。

すてる「ウンゴ」で拾う命
大腸がん検診を受けましょう

症状が初めに受けてこそ有効です

大腸がんとは
増え続けるがんの中でも、近年急速に増えてきているがんです。高齢化・肥満・喫煙・運動不足・飲酒などが原因とされています。
罹患数、死亡数は男女共に第3位以内です。（国立がん研究センター調べ）

大腸がん検診とは
腸内にがんやポリープ、出血性炎症などがあると便の表面に血液が付着します。この便に塗った血液を調べる検査（便潜血検査）が大腸がん検診です。1回法（1回のみ採取）と2回法（別々の便で2回採取）があります。この検査で陽性となれば大腸内視鏡による精密検査が必要になります。

毎年受けることが早期発見になります。
ステージ1の早期がんであれば90%以上治るといわれています。自覚症状のほとんどない腸癌では早期で発見できる可能性が高く、早期であれば治療も簡単でほとんど何ら特別な治療で対応可能です。ご加入の保険組合や自治体の制度など活用し、毎年受けましょう。

検診の申込み・お問い合わせ

- ・事業所
- ・電話
- ・郵送
- ・E-mail

中央病院総合移転計画
「基本設計が確定、建設予定地周辺の道路工事進行中！」

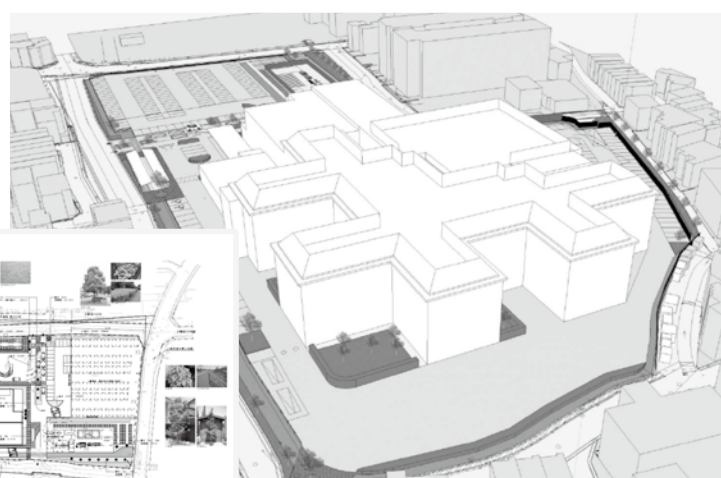
京都民医連中央病院「ユニアルP」事務責任者 桜本 憲一郎

新病院の基本設計が確定しました。設計管理会社からの概算見積もりでは、資材の高騰などの関係で、当初予算から大きく膨れた金額となっております。

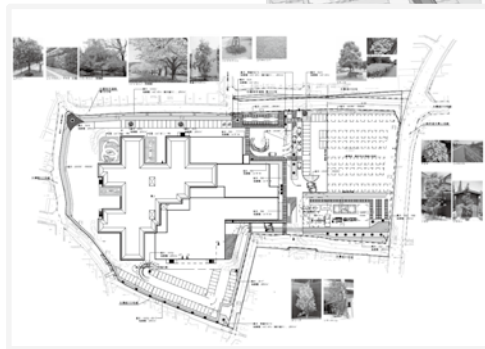
現在、建築費用を予算内におさめるために、診療機能には極力影響をさせず、部分的に最適化し、様々な発想で費用削減ができるようVE（バリューエンジニアリング）検討を進めています。

※提供しようとしている商品やサービスが、そもそも誰のためのもの（こと）であるのか、何のためのもの（こと）であるのか（＝機能）を検討明確化し、そして商品やサービスの「価値」を、その「機能」と「コスト」の関係で表し、価値を向上させることを目的とすること。

「南太秦中央病院対策委員会」を開催
新病院予定地の近隣各町内から代表者にご参加頂き、病院側からは計画に関わる説明、地域からはご意見、ご要望を頂く中央病院対策委員会を、7月と9月に開催しました。この間、まちづくり条例に関わるご意見、ご要望をもとに、救急車の専用人口の設置や緑化、外構フェンスの形状などを確認してきました。



北西鳥瞰図



植栽計画